

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2170103853
法人名	医療法人社団総文会
事業所名	グループホームあだち
訪問調査日	平成19年8月20日
評価確定日	平成 年 月 日
評価機関名	

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家 族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日平成19年9月22日

【評価実施概要】

事業所番号	2170103853
法人名	医療法人社団総文会
事業所名	グループホームあだち
所在地	岐阜市北一色4丁目5番7号 (電話) 058-249-5003
評価機関名	旅人とたいようの会
所在地	大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成19年8月20日

【情報提供票より】(19年6月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 9 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 10人, 非常勤 6人, 常勤換算 6.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	17名	男性	7名	女性	10名
要介護1	1名	要介護2	6名		
要介護3	6名	要介護4	4名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 73.1歳	最低	59歳	最高	88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	成瀬クリニック・小笠原内科・県立総合医療センター
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田畑に囲まれ静かな環境の元、母体は医療法人で、通所介護施設や系列のグループホームも併設しており、医療機関との連携を強力に結び支援している。代表者は高齢化社会の到来に際し、家庭的な雰囲気の中で自立的な生活を送るための施設を開設し、症状を和らげたり、進行を遅らせたりすることを目的として、安全で安心な生活を送れるような支援を行いたい考えである。また、精神科からの紹介が多い為、認知症だけでなく、うつ病やその他の病気を併発した人たちの受け入れにも積極的に取り組んでいる。職員は地域住民との関わりを積極的に行い、機会あるごとに利用者と一緒に地域に出向いて交流を深めるように努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で出された改善点について、全職員で検討し改善へ向けての取り組みを行っている。地域の人たちとの交流の促進については、管理者自ら積極的に出向いて、施設の行事への参加を呼びかけるなど、近所の人との馴染みの関係作りを行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員は自己評価することで、日々のケアの振り返りが出来ると捉え、積極的に取り組んでいる。評価については、ホーム職員の気付かない点を知る機会と捉え、評価結果を職員の休憩室に提示し、常に職員が心に留めるようにしている。また玄関にも同様に備え付け、外来者にも開示しサービスの向上に前向きに取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>今年度に入ってからホームでの運営推進会議は行っていない。会議には利用者や家族を始め、地域住民や幅広い立場の人が積極的に参加してもらえるよう働きかけ、多くの意見を引き出し、会議が地域との繋がりを深めていく貴重な機会と捉え、サービスの向上に活用されることを期待したい。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>苦情箱などの設置はないが、家族が来訪時に意見や要望が言いやすい雰囲気作りを心掛けながら、日々の暮らしぶりの報告も行っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しているが利用者の状態から地域活動への参加の機会は少ない。朝の散歩時には進んで挨拶等をしたり、近所の喫茶店に、認知症のある人を受け入れてもらえるよう働きかけを行い、定期的に出向いている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域住民との関わりや意義の重要性を理解した上で、地域との繋がりや家族との交流を大切にしている。「心生きいき、心楽しく、その人らしく生きるよう支援します」の理念を明示するとともに、職員全員が周知している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム独自の理念が、玄関や共有空間や職員休憩室に掲げられ、ケアの中で折に触れ話し合う時間を設けている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入はあるが利用者の状態から、地域の活動への参加の機会が少ない。ホームからは季節毎の行事等を自治会に呼びかけ、交流を深める機会を作っている。		地域の人が犬の散歩時など、気軽に立ち寄って挨拶をしていく雰囲気はあるが、今後地域住民としての参加・交流を持つ機会を増やし、地域から必要とされることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義を理解し、意識の統一化と日々のケアの見直しの機会として前向きに取り組んでいる。前回の評価結果は、玄関や休憩室に貼り付け、改善に向けての検討を重ね実践に繋げている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年の3月までは地域の同業者で運営推進会議が行われていた。現在、ホーム独自の推進会議は行われていない。		利用者や家族、地域住民や行政関係者などが、積極的に参加してもらえるような運営推進会議をもたれることを望む。多くの意見を引き出し、地域の理解と支援を得ながらサービスの質の向上に活用されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から市町村担当者にホームの様子を知らせたり、利用者の精神的な状態の変化によって、近隣とのトラブル等があった時など、相談に乗ってもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年一回のホーム便りと、毎月の金銭出納帳報告時に、担当職員の手書きの便りにて、利用者の暮らしぶりや健康状態を知らせている。また、訪問時にはその都度近況の写真や言葉で伝えたり、緊急時の変化には電話などで伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時などで意見や要望を言ってもらえるような雰囲気作り心がけ、出された意見は月に一回のミーティング等で話し合っている。また入居時に、ホーム及び外部の苦情相談窓口や、利用方法を説明している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の移動はないが、グループホームあだち とあだち の職員の移動はある。その際には各フロアの担当者を中心に、利用者きちんと伝えることにより、馴染みの関係を作り、ダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業主体が医療法人のため、院長や看護師にて、医療に関する専門的な研修を定期的に行っている。また、外部の研修にも積極的に参加し、会議等において、職員全員が共有している。併設デイサービスの職員からの学びも含め、日々の体験を働きながらの学びに繋げて行くトレーニングも行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年度までは、地域の同業施設同士で、情報交換等推進会議を開催し交流が図られていたが、今年度に入り行われていないので、その機会も持ち合わせていない。		他のグループホーム職員と交流する機会を持ち、勉強会や意見交換会を通じて悩みの解消を図ったり、緊急時の連携体制の強化や、サービスの質の向上に繋げることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>デイサービスとの併設施設であり、そこで集団生活を体験して、馴染みながら入所する方が多い。入所前、入所後も相互の交流の場を設け、利用者のその人らしい生活作りを心掛けている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者を主体において、料理・洗濯・後片付け・歌を歌ったりと、活躍の場面作りを大切にしている。買い物などのヒントなど、職員から利用者へ相談し、共通の話題を持つなど、一緒に過ごす時間を大切にしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりの得意なこと、好きなことを把握し、本人の意向やその日の表情・体調を確認しながら無理強いをせずに関わっている。また、自己を発揮することが出来ない利用者には、焦らずゆっくりと一対一のケアに取り組んでいる。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアマネジメントセンター方式によるアセスメントから、本人の思いや暮らし方の情報を得ている。利用者や家族及び職員の意見を反映し、利用者の視点や暮らしを重要と捉え、強みを生かした介護計画となっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画に沿ったサービスが提供され、利用者の状況を毎日個別記録に記入し、評価・見直しも定期的に行われている。状態の変化時には随時計画の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて医療機関への受診や送迎を行っている。個人的な買い物の付き添いや喫茶店へ一緒に行くなど、個々の満足を高める努力をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医として、個人病院(母体医院)や総合病院と連携を密にしている。定期的な往診や緊急時も気軽に相談や支持を得られる体制が整っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとして本人や家族の意思を尊重し、利用者の今後の方向性としての課題と捉えている。末期の近い利用者についてはかかりつけ医や家族と随時の話し合いの場を設けている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉掛けは優しく温かみがあり、利用者の誇りやプライバシーを損なうものではない。管理者は研修やミーティング等で、利用者の尊厳を支えるケアの大切さを職員に確認し、意識の向上を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中のスケジュールはほとんどなく、自室に行き休憩したり、友達同士でおしゃべりを楽しんだり、趣味を楽しむ人など、利用者一人ひとりの望むペースの暮らしとなっている。職員は利用者の体調に配慮し、本人の気持ちを尊重し、個別性のある支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのペースに合わせ見守りながら食事を楽しんでいる。近所から頂いた野菜の下ごしらえや、片付けなど、それぞれの身体状況に合わせた支援をしている。		車椅子のまま食事をしている人もあるが、安定感や食を楽しむ観点から、アセスメントを行い、その上で食卓椅子に移動して食事を取るような工夫を望みたい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は週に三回、午後からの入浴と決められているが、利用者の希望や状態に合わせて、毎日でも可能である。個別に随時シャワー浴も行える。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や後片付け、洗濯物干しやたたみなど、暮らしの中から一人ひとりに合った役割を見つけ、個別の支援をしている。塗り絵や折り紙、歌を歌ったり、のんびりとおしゃべりをして過ごすなど、楽しみごとや気晴らしの支援も行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に合わせ、買い物や散歩など戸外に出ることを優先している。地域住民の理解と協力の下、近くの喫茶店へ全員で出掛け、気分転換やストレスの発散、五感刺激を得られる貴重な機会と捉え実践している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	認知症だけでなく他の障害を持った利用者が多い為、1階の玄関は利用者・家族の了解の上で、日常的に施錠してある。2階の出入り口やエレベーターも施錠してあるが、日中自由に出入り出来る時間を設け、2階の出入り口は時間を決めて、開放するときもある。		利用者の状態に応じて、日中少しでも鍵をかけない時間が持てる工夫を職員間で話し合う場をもたれたい。職員が自由に外に出れないことについて利用者個々の立場に立って考え、日中鍵をかけずに支援していく努力をする意識や姿勢をさらに学ばれることを期待する。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て、利用者・職員で避難訓練を行っており、非常災害用の水の備えはある。避難経路や連絡方法も確認し、協力医療機関との連携体制も出来ている。		消防署だけでなく、自治会や運営推進会議を通じて、地域住民との協力体制も築いていく必要があると思われる。また、非常災害時の備蓄の確認をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や希望を取り入れながら、食べ残しがないような献立で、栄養バランスにも配慮してる。毎食汁物をつけ、一人ひとりの摂取量を記録に残し、職員は把握している。体調により個食の希望者には、居室にて食事したり、刻み食や介助食などの個別の支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔に保たれ、気になる臭いも全くない。居間には手作りカレンダーや紙細工などが飾られ、季節や生活を感じられる事が出来る工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや筆筒、鏡や化粧品など使い慣れた日用品や、ぬいぐるみ・手作りカレンダー・写真などを持ち込んでもらい、一人ひとりが居心地よく生活ができる好みの居室となっている。床に絨毯を敷いている居室もある。		